トチカガミ科　　準絶滅危惧

トチカガミ

Hydrocharis dubia (Blume) Backer

国内分布：本州～九州
開花時期：8 ～ 10 月

浮遊植物　浮葉植物　抽水植物　在来種

湖沼やため池、水路に生育する多年草。茎は水面付近を伸び、節から根と葉を出す。円い葉の裏側はスポンジ状になって浮きのような役割を果たしている。葉が密になり、立ち上がると浮きの部分ははっきりしなくなる。

①白い花を咲かせ，雄花と雌花がある. ②トチカガミの越冬芽．秋になると茎の先端に越冬芽ができて水中に沈む．翌年の春，越冬芽から発芽する.

トチカガミ科　　準絶滅危惧

イトトリゲモ

Najas japonica Nakai

国内分布：北海道～九州
開花時期：6 ～ 9 月

沈水植物　在来種

比較的環境のよい水田で目にする一年草。ため池にも生える。トリゲモの仲間の中では特に細い葉をもち、対生もしくは輪生する。節に果実が２つ並ぶことが多く、これも確認すればバッチリ。トリゲモ類を葉の太さで区別できるようになれば水草上級者。

①イトトリゲモの全体像. ②２つ並んだ果実．１つだけのこともあるので注意.

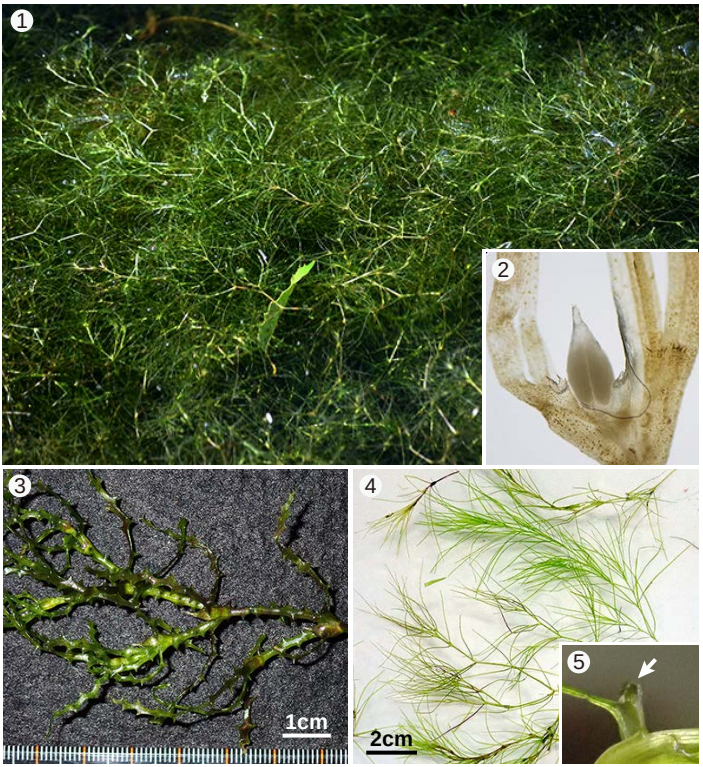
オオトリゲモ

Najas oguraensis Miki

国内分布：本州～沖縄
開花時期：7 ～ 10 月

沈水植物　在来種

湖沼やため池に生育する一年草。茎はよく枝分かれして広がり、群落を上から眺めるとこんもりとしている。トリゲモの仲間はよく似ている。葉の太さ、鋸歯の程度、葉鞘の先端が尖るかどうか、葯の部屋の数、節につく果実の数や形、種子の表面の模様が識別のポイントとなる。



①オオトリゲモ. ②葯. ③イバラモ．葉の縁が棘状になり，ほかのトリゲモの仲間よりも大型で太い. ④ホッスモ. ⑤ホッスモの葉の基部は鞘状になり先端が尖っている（矢印の部分）ので正確な同定の際には要確認.

絶滅危惧Ⅱ類

ミズオオバコ

Ottelia alismoides (L.) Pers.

国内分布：北海道～沖縄
開花時期：8 ～ 10 月

沈水植物　在来種

湖沼、ため池、水田や水路に生育する一年草。オオバコの葉の形に似た美しい沈水葉を根から複数出す。水田に生えるものは小さいが、ため池では別種と思うほど大きく育つ。とても美しい水草なので田んぼやため池でぜひ探して欲しい。

①ミズオオバコの全体像．葉は水中にあるが花は水面から出る．葉はオオバコに似るが，オオバコとは全く違うグループの植物．②花は白色から薄いピンク色で，花びらの外側に行くほどピンクが強くなる．③果実の表面にはひだが目立つ．

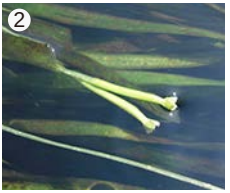
セキショウモ

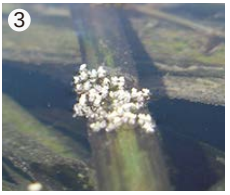
Vallisneria asiatica Miki

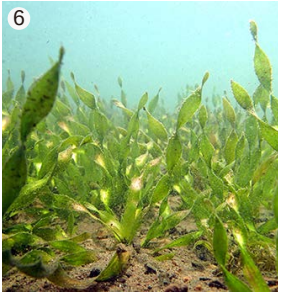
国内分布：本州・九州
開花時期：8 ～ 10 月

沈水植物　在来種

湖沼、ため池、河川や水路に生育する多年草。葉は細長いテープ状で根生し、地下茎を出して株を増やす。雌雄異株で、雄花はちぎれて水面を漂い、水面まで伸びた雌花と受粉する。受粉後、雌花の花柄は黒電話の受話器のひものようにらせん状になり、水中で結実する。変種にネジレモ、近縁種にコウガイモがいる。







①セキショウモ. ②セキショウモの雌花と③雄花. ④近縁種のコウガイモ．地下茎には刺があり，秋になると茎の先端に越冬芽を作る. ⑤セキショウモのらせん状の花柄. ⑥セキショウモの変種のネジレモ（琵琶湖水系固有）は葉が強くねじれる.

ヒルムシロ科

ヒルムシロ

Potamogeton distinctus A.Benn.

国内分布：北海道～沖縄
開花時期：5 ～ 10 月

浮葉植物　在来種

湖沼、ため池、河川、水路や水田に生える多年草。水田雑草と言えばこれ。群生して楕円形の浮葉が水面を覆う様子は、筵（むしろ）を引いたように見えなくもない。細長い沈水葉には葉柄がある。

①葉は水面に広がる．水面から飛びでた棒状のものは花序．②浮葉と沈水葉を付けたヒルムシロ．沈水葉にははっきりとした柄がある．③花序の様子．いぼのように見えているのが雌しべ．いぼの集まりそれぞれが一つの花．

ヒルムシロ科

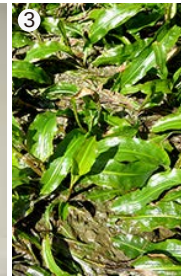
ササバモ

Potamogeton wrightii Morong

国内分布：北海道～沖縄
開花時期：6 ～ 9 月

沈水植物　浮葉植物　在来種

湖沼や河川、水路に生育する多年草。ササの葉のようにも見える沈水葉はヒルムシロの仲間の中でも特に大きく、細長い楕円状で葉柄がある。先端がツンと尖るのが特徴。



①水中に生える様子．花序も出ている．②葉と花．葉の先は尖る．③干上がった場所では葉の雰囲気が全く変わり，ほかのヒルムシロ科の植物との区別が難しい．

ヒルムシロ科

エビモ

Potamogeton crispus L.

国内分布：北海道～沖縄
開花時期：5～9月

沈水植物　在来種

湖沼、ため池、河川、水路に生育する多年草。流れの速い水路ではヤナギモ、ホソバミズヒキモなどとともによく見る水草。葉の縁は波うち、先端は円く、葉柄は無い。

①水中の様子. ②花. ③葉と茎が変形した芽（越冬芽・越夏芽）．ため池などでは夏に枯れ，秋になるとこの芽から発芽して冬を越す.

ヒルムシロ科

センニンモ

Potamogeton maackianus A.Benn.

国内分布：北海道～九州
開花時期：6～8月

沈水植物　在来種

湖沼やため池、河川に生育する常緑の多年草。葉の縁には鋸歯があり、先端は凸状になる。葉柄は無く、葉の基部は鞘状になる。葉の先端と鞘状の部分を確認できればセンニンモと考えて良い。雌しべは２つだが花をつけた個体に出会うのはまれ。

①水中に生える様子. ②全体の様子. ③④葉先は凸状で，基部は鞘状になり茎を包む.

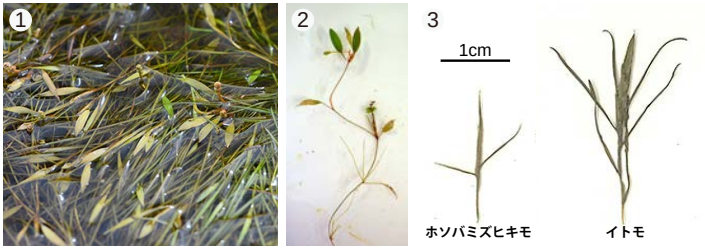
ホソバミズヒキモ

Potamogeton octandrus Poir.

国内分布：北海道～沖縄
開花時期：6～9月

沈水植物　浮葉植物　在来種

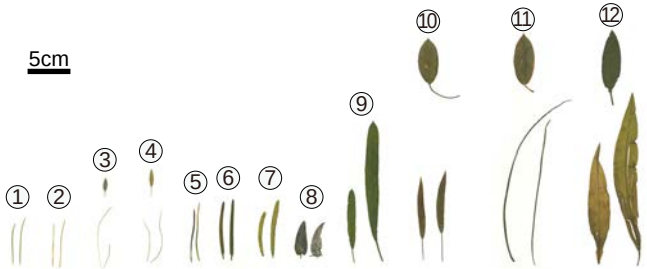
ため池、水路などに生育する多年草。ため池では 2～3cm の浮葉をつける。幅 1 mm 以下のとても細い沈水葉を持ち、葉脈は 1 本。秋になると葉と茎の付け根に越冬芽をつける。よく似たイトモは浮葉をもたず、沈水葉は葉脈 3 本で少し幅広く、越冬芽はより大きい。



①浮葉，沈水葉，花を出したホソバミズヒキモ. ②全体の様子．茎の真ん中より下の節から出ている細長いのが沈水葉. ③ホソバミズヒキモとイトモの越冬芽の比較.

コラム：ヒルムシロの仲間の葉

ヒルムシロ科ヒルムシロ属の植物の葉の形は実に多様です。種ごとの違いはもちろんのこと、同じ種であっても沈水葉と浮葉で全く形が異なることも。ヒルムシロ属は水草の中で最も多くの種を含み、いろんな場所に生育していますが、識別がとても難しいグループです。まずは、典型的な葉の形を見分けるところからはじめましょう。



ヒルムシロの仲間の葉の多様性. ①イトモ, ②ツツイトモ, ③ホソバミズヒキモ, ④コバノヒルムシロ, ⑤ヤナギモ, ⑥センニンモ, ⑦エビモ, ⑧ヒロハノエビモ, ⑨ササバモ, ⑩ヒルムシロ, ⑪オヒルムシロ, ⑫フトヒルムシロ. ③④⑩⑪⑫については沈水葉と浮葉の両方を持つので，沈水葉の上に浮葉を示した.

アヤメ科

キショウブ

Iris pseudacorus L.

国内分布：北海道～九州
開花時期：4 ～ 6 月

抽水植物　外来種

湖沼やため池、河川、水路に生育する多年草。黄色い花は美しく、植栽されることも多いが、各地に逃げ出している。湿地に生える在来種のカキツバタは花が青紫色。また、キショウブの中央の葉脈は明瞭なので、花がなくてもカキツバタと区別できる。

①水際に群生している様子. ②花．外側に 3 枚，内側に 3 枚の花被片からなる.

ツユクサ科

イボクサ

Murdannia keisak (Hassk.) Hand.-Mazz.

国内分布：北海道～沖縄
開花時期：8 ～ 10 月

抽水植物　在来種

湖沼やため池、河川、水路、水田に生育する一年草。葉は互生して基部は鞘状になる。うすピンク色の花びらが 3 枚あり、雄しべは 6 本、雌しべは 1 本。湖沼やため池では、完全に水中に沈んで、沈水植物として生育していることがある。

①花をつけた抽水状態のイボクサ. ②沈水植物として生える様子.

ミズアオイ科

ホテイアオイ

Eichhornia crassipes (Mart.) Solms

国内分布：本州～沖縄

開花時期：6 ～ 11 月

浮遊植物　外来種

定番の園芸植物だが、全世界で問題になっている大害草。横に伸びた茎から子株をどんどん増やして水面を覆う。株によって雌しべの長さに 3 タイプあり、日本には長いものと中くらいの株が定着している。

①水面を覆い尽くす様子と花. ②葉柄は布袋様のお腹の様に膨らんで浮きの役割をする．株が増えすぎた場所や浅い場所では右側の株のように浮きが細くなる.

ミズアオイ科

コナギ

Monochoria vaginalis (Burm.f.) C.Presl ex Kunth

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：8 ～ 10 月

抽水植物　在来種

オモダカとともに最もよく見る水田雑草で一年草。ナギとはミズアオイの古い名前で、より小さいことが和名の由来。花茎は短く、ハート型の葉の位置よりも高くなることは無い。薄紫色の花には雌しべが 1 本、黄色い葯を持つ雄しべ 5 本と青い葯を持つ雄しべが 1 本ある。

①コナギの葉と花の断面. ②近縁種のミズアオイ．コナギと違い花茎が葉より高い.

準絶滅危惧

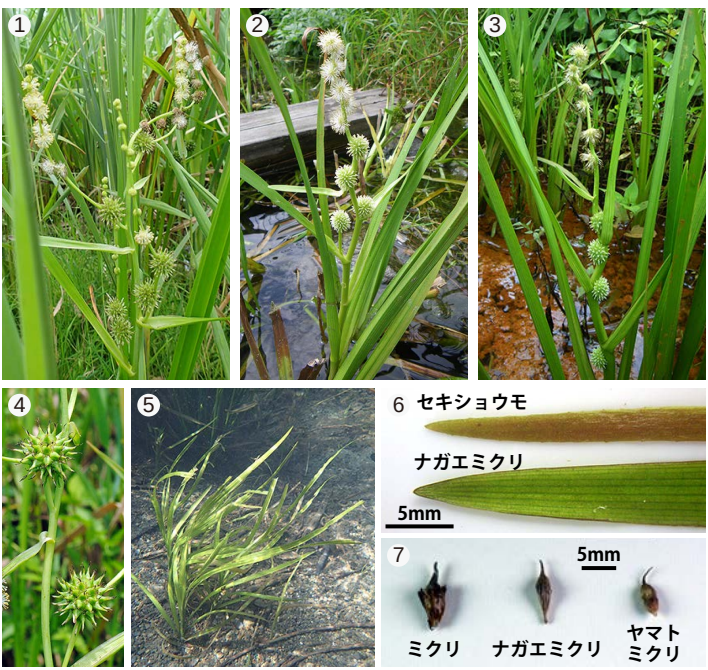
ミクリ

Sparganium erectum L.

国内分布：北海道～九州
開花時期：6～9月

抽水植物　在来種

湖沼や河川、水路に生育する多年草。名前の由来は果実の集まりがクリの「いが」に見えるためで、棘に見えるひとつひとつが果実。果実はコルク質で水に浮いて散布される。ミクリの仲間は果実の形と花序の付き方が識別のポイント。



①ミクリ．花茎は枝分かれする．茎の下の方には雌花の丸い集まり，上の方には雄花の集まりがつくのがミクリの仲間の共通点.②ナガエミクリ．一番下の雌花の集まりには柄があるので名前に「長柄」がつく.③ヤマトミクリ．雌花の集まりは花茎に直接，しかも葉と葉の間につく.④結実したミクリ．クリに似ている？⑤ナガエミクリの沈水葉．セキショウモと間違えられることがある.⑥ナガエミクリの沈水葉の縁にはギザギザがなく，葉脈がはっきりする．セキショウモの葉の縁にはギザギザがあり，葉脈がはっきりしない.⑦3 種の果実の比較.

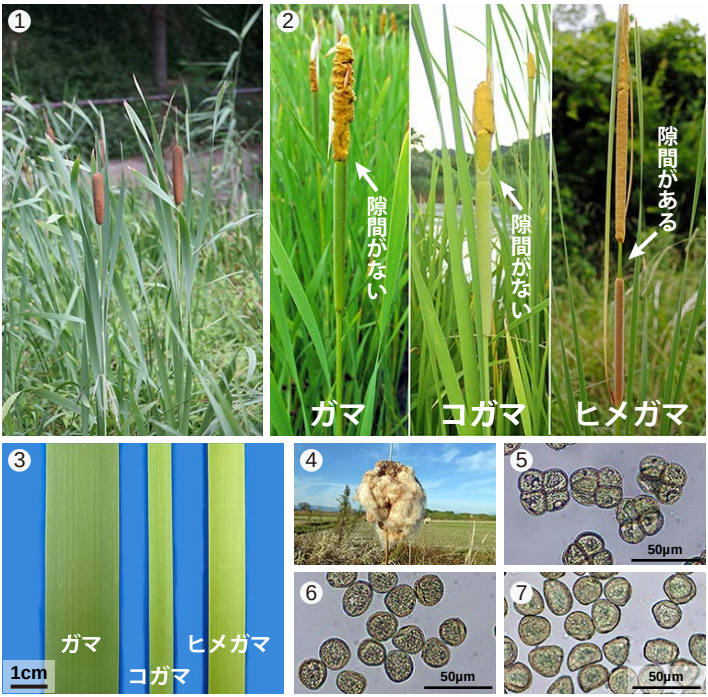
ガマ

Typha latifolia L.

国内分布：北海道～九州
開花時期：関西では 6 月

抽水植物　在来種

高地以外のあらゆる水辺に生える多年草。ソーセージのように見える花序は雌花の集まり。雄花の集まりは雌花の集まりの上につき初夏に開花する。花序は 12 月ごろまで見られ、冬の晴れた日に無数の微小な果実を散布する。ぜひ一度は「開けた屋外」でガマの果実を散布させてみて欲しい。



①果実期のガマ．大型で良く目立つ．②ガマの仲間の花の比較．左からガマ，コガマ，ヒメガマ．上側のもこもこしたのが雄花の集まりで，下側が雌花の集まり．ヒメガマは雄花の集まりと雌花の集まりの間に隙間がある．③ガマの仲間の葉の比較．左からガマ，コガマ，ヒメガマ．コガマはガマよりも葉が細く，幅 1cm 以下．④種子散布中のガマ．⑤ガマの花粉は 4 つ集まる．⑥コガマの花粉と⑦ヒメガマの花粉は 1 つずつばらばら．

イグサ科

イグサ

Juncus decipiens (Buchenau) Nakai

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：5～9月

抽水植物　在来種

湖沼、ため池、河川、水田などに生育する多年草。別名は「イ」。株立ちして見えているものは全て茎。花茎は花が出て来るところまで。そこから先は花序の下から伸びる苞。本当の葉はこの花茎の根元を鞘状に包んでいる。畳やゴザに使われるのは“コヒゲ”と呼ばれる栽培品種。

①花序．たくさんの小さな花が付く．②根元の鞘状の葉（矢印）．③全体の様子．

イグサ科

コゴメイ

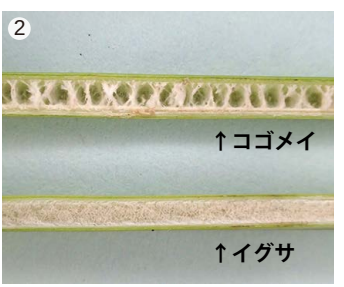
Juncus sp.

国内分布：本州

開花時期：5～9月

抽水植物　外来種

湖沼や河川、水路に生育する多年草。見た目はイグサだが2m近くまで大きくなる場合もある。花茎を縦に裂いた断面は、イグサはスポンジ状で詰まっているが、コゴメイは「はしご状」になっている。実際には複数の外来種が日本に侵入しているようで、コゴメイとはこれらの総称。



①株立ちして生えてる様子．②イコゴメイとイグサの花茎の縦断面の比較．